

【時鳥】ほととぎす

ホトトギスはカッコウと同種。全長約二十八cm、背は灰褐色、腹は白に横縞。カッコウに似ていますが少し小形です。五月頃に日本に渡来し八月か九月に南方へ帰ります。

時鳥の鳴き声を、昔は「シデノタオサ」「テッペンカケタカ」と聞き取っていました。

現代は「特許許可局」という聞きなしがありますね。

私は何度も CD で鳴き声を聞いてみたのですが、特に雄の鳴き声は美しくも、あまりに複雑なため一定の音に聞き取ることはできませんでした。複雑であるが故に上記の聞きなし全てが当てはまるようにも思えます。そもそも、ホトトギスという名も鳴き声からきているようです。この鳥が鳴くことを「名のる」と言った例があるのもその為でしょう。

ホトトギスに当てる漢字も豊富で時鳥・郭公・郭公鳥・杜鵑・子規・不如帰などが知られています。

・我が宿の池の藤波咲きにけり山時鳥いつか来鳴かむ 『古今集』よみ人知らず

この歌で始まる『古今集』夏歌三十四首のうち二十八首に時鳥が詠まれていることは、この鳥が夏を代表する風物であることを物語っています。そのいずれもが夏の明るさ、さわやかさを象徴する鳥として詠まれています。

また小堀遠州『書捨文』に「春は霞、夏は青葉がくれの時鳥、秋はいと淋しさまさる夕の空、冬は雪の暁、…」とあるように時鳥は茶趣にも適い親しまれてきました。

しかし、この鳥のイメージは、明るいさわやかさというだけの単純なものではありません。明るいイメージの中に極めて彫りの深い陰影を併せ持つ鳥なのです。

いま、時鳥の陰の要素を箇条書きにしてみましょう。

- ①夜も鳴く。
- ②身近に鳴き声を聞きながらも容易に姿を見せない。
- ③あの世とこの世を渡る冥土の鳥といわれる。
- ④「死出の田長(シデノタヲサ)」と鳴く。
- ⑤托卵する。(ウグイス・ミソサザイなど他種の巣に卵を産み育てさせる)
- ⑥中国では鳴いて血を吐く不吉な鳥とされる。
- ⑦中国では蜀の望帝の霊として嫌われる。

①②が要因となり③④が派生したのでしょう。

昔は現代のように冥土を必ずしも不吉なものとして捉えていたわけではありません。冥土は祖先の住む処であり、冥土の鳥は聖なる鳥として畏敬の念をもって見られていたことは想像できます。

いうまでもなく、日本の土着的文化では時鳥は不吉な鳥ではありません。⑥⑦のように日本と中国で吉凶が逆になる例は幾つかあるようです。

♪ 卯の花の匂う垣根に 時鳥はやも来鳴きて 忍び音もらす夏は来ぬ ♪

『夏は来ぬ』詩 佐佐木信綱

いい歌ですね。「忍び音」とは身近に鳴き声を聞きながらも姿を見せない時鳥の鳴き声、特に初音をいうそうです。先ほどの遠州の「青葉がくれの時鳥」という表現も同様の根拠によるものなのでしょう。

このように、陽の背後にあの世まで通ずる陰をも併せ持つところに時鳥の魅力はあるのではないのでしょうか。

清少納言はこうした魅力を敏感に感じ取ったひとりです。

『枕草子』に「夜まさりするもの(夜にこそ真価を発揮するもの)」に時鳥をあげています。「ほととぎす鶯に劣るといふ人こそ、いとつらう、憎れ(時鳥が鶯より劣るといふ人は不愉快で憎らしい)」というまでに時鳥びいきの彼女は、陰に縁取られた陽の鳥に底知れぬ魅力を感じていたようです。ライバル紫式部が鶯を好んでいたことも影響していたのかもしれませんが。

さて、貴方は鶯派？それとも時鳥派？

<http://www.morita-fumiyasu.com/>

~ Copyright (C) 2011 ~私の書齋~ 森田文康. All Rights Reserved.~